

木更津工業高等専門学校		開講年度	令和08年度(2026年度)	授業科目	技術者倫理
科目基礎情報					
科目番号		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境都市工学科	対象学年	3		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	東京書籍『公共』				
担当教員	小谷 俊博				
到達目標					
評価項目1. 青年期の意義や自己形成を理解し、哲学者の考えを手がかりに共生の重要性を考察するとともに、現代社会の課題を探究・論述・討論し、持続可能な共生社会の実現を人文・社会科学の視点から展望できる。 評価項目2. 技術者倫理の社会的背景や重要性を理解し、技術者の責任や役割を説明するとともに、現代社会の具体的課題に対して専門分野と関連づけながら、倫理観に基づく適切な行動を説明できる。 評価項目3. 情報技術の社会的影響や関連法規を理解し、情報通信技術と倫理の関係や知的財産の意義・基本事項、新規アイデア創出に必要なことが何か説明できる。 評価項目4. 国際社会や地域社会において技術者に求められる行動や責任を理解し、過疎化・少子化などの地域課題や各国・地域の発展に対して科学技術が果たすべき役割を説明できる。 評価項目5. 技術者の社会的責任や法令順守の重要性を理解し、諸外国の文化や法令を尊重する姿勢を持つとともに、科学技術の社会的影響や技術発展に貢献した先人の姿から技術者の役割や使命を説明できる。 評価項目6. 持続可能な開発や環境問題への理解を踏まえ、専門分野からの配慮や技術者としてふさわしい行動を説明でき、平和構築や異文化理解、資源維持、災害防止の重要性を認識している。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	青年期の意義や自己形成を理解し、哲学者の考えを手がかりに共生の重要性を考察するとともに、現代社会の課題を探究・論述・討論し、持続可能な共生社会の実現を人文・社会科学の視点から展望できる。	青年期の意義や自己形成を理解し、哲学者の考えを手がかりに共生の重要性を考察するとともに、現代社会の課題を探究・論述・討論し、持続可能な共生社会の実現を人文・社会科学の視点から理解できる。	青年期の意義や自己形成を理解し、哲学者の考えを手がかりに共生の重要性を考察するとともに、現代社会の課題を探究・論述・討論し、持続可能な共生社会の実現を人文・社会科学の視点から理解できない。		
評価項目2	技術者倫理の社会的背景や重要性を理解し、技術者の責任や役割を説明するとともに、現代社会の具体的課題に対して専門分野と関連づけながら、倫理観に基づく適切な行動を説明できる。	技術者倫理の社会的背景や重要性を理解し、技術者の責任や役割、現代社会の具体的課題に対する倫理観に基づく行動を専門分野と関連づけて理解できる。	技術者倫理の社会的背景や重要性を理解し、技術者の責任や役割、現代社会の具体的課題に対する倫理観に基づく行動を専門分野と関連づけて理解できない。		
評価項目3	情報技術の社会的影響や関連法規を理解し、情報通信技術と倫理の関係や知的財産の意義・基本事項、新規アイデア創出に必要なことが何か説明できる。	情報技術の社会的影響や関連法規、情報通信技術と倫理の関係、知的財産の意義や基本事項、新規アイデア創出の考え方を理解できる。	情報技術の社会的影響や関連法規、情報通信技術と倫理の関係、知的財産の意義や基本事項、新規アイデア創出の考え方を理解できない。		
評価項目4	国際社会や地域社会において技術者に求められる行動や責任を理解し、過疎化・少子化などの地域課題や各国・地域の発展に対して科学技術が果たすべき役割を説明できる。	国際社会や地域社会において技術者に求められる行動や責任、地域課題や各国・地域の発展に対して科学技術が果たすべき役割を理解できる。	国際社会や地域社会において技術者に求められる行動や責任、地域課題や各国・地域の発展に対して科学技術が果たすべき役割を理解できない。		
評価項目5	国際社会や地域社会において技術者に求められる行動や責任を理解し、過疎化・少子化などの地域課題や各国・地域の発展に対して科学技術が果たすべき役割を説明できる。	国際社会や地域社会において技術者に求められる行動や責任、地域課題や各国・地域の発展に対して科学技術が果たすべき役割を理解できる。	国際社会や地域社会において技術者に求められる行動や責任、地域課題や各国・地域の発展に対して科学技術が果たすべき役割を理解できない。		
評価項目6	技術者の社会的責任や法令順守の重要性を理解し、諸外国の文化や法令を尊重する姿勢を持つとともに、科学技術の社会的影響や技術発展に貢献した先人の姿から技術者の役割や使命を説明できる。	技術者の社会的責任や法令順守の重要性、諸外国の文化や法令を尊重する姿勢、科学技術の影響や技術者の使命について理解できる。	技術者の社会的責任や法令順守の重要性、諸外国の文化や法令を尊重する姿勢、科学技術の影響や技術者の使命について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係 準学士課程(R5までのDP) R5までDP_3 教養と倫理観の修得と社会への貢献					
教育方法等					
概要	この授業は、技術者倫理の基本的な内容を網羅的に学び、その後に高校の公民科目である「公共」で標準的に扱われる青年期の課題や哲学思想について学ぶ。				

授業の進め方・方法		教員からの講義に基づき、ワークシートに取り組み、グループで意見交換しながら理解を深める方法で進める。受け身の態度ではなく、主体的に思考し、また他者の意見に積極的に耳を傾け理解しようとする態度が重要となる。		
注意点				
授業の属性・履修上の区分				
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	授業の方針・目的について理解する
		2週	技術者倫理1	製造物責任等を例に、技術者の社会的責任、プロフェッショナルとしてのあり方を理解する
		3週	技術者倫理2	個人情報、著作権、知的財産権について理解する
		4週	技術者倫理3	特許権や不正競争防止法について理解する
		5週	技術者倫理4	SDGsの経緯および環境問題の1例として水俣病の問題について理解する
		6週	技術者倫理5	異文化理解とグローバル化に関わる技術者倫理上の問題について理解する
		7週	技術者倫理6	技術移転および内部告発に関する技術者倫理上の問題について理解する
		9週	技術者倫理7	
	4thQ	10週	技術者倫理8	バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザインの例を参照しつつ、設計に関わる技術者倫理の問題について理解する
		11週	技術者倫理9	AI等の最新技術に関する技術者倫理の問題について理解する
		12週	現代社会に生きる青年	青年期と自己形成の課題および自己形成と社会との関係について理解する
		13週	社会的な関係のなかで生きる人間	個人として尊重される人間および社会的な存在としての人間について理解する
		14週	公共空間における人としてのあり方	功利主義・義務論や幸福の原理について理解する
		15週	試験返却・解説・総まとめ	試験返却および解説を確認し、前期の授業の総まとめを行う
		16週		
		評価割合		
	試験		ワークシート	
評価項目1～6	80		20	